

各種教育機関

米国の公立大学

ロバート・H・ブルーニクス



Elliott Minor, AP/WWP
賞を受けた自作のロボット飛行機の制作に励むアリゾナ大学工学部の学生たち。

一般的に、公立（州立）大学には数万人の学生が在籍しており、数百の専攻分野で学位を授与している。この記事では、ミネソタ大学のロバート・H・ブルーニクス学長が、大規模な州立大学の組織と財務構造について、またそうした大学における留学生や海外からの研究者が得ることができる機会について説明する。ブルーニクス氏は、2002年から同大学長を務めており、J・ウィリアム・フルブライト奨学金理事会の理事でもある。

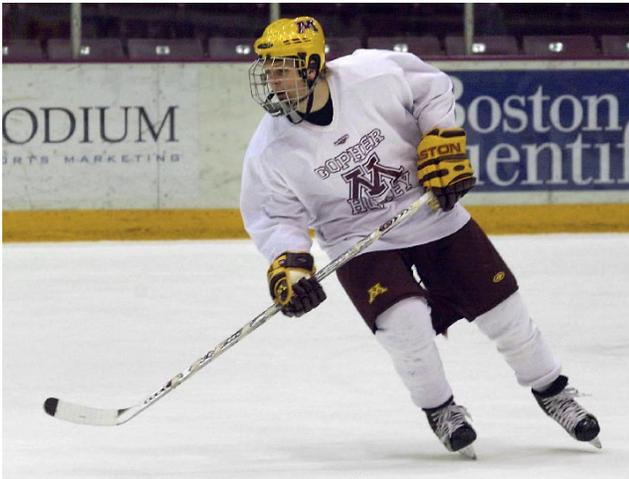
米国の大規模な公立大学は州立大学とも呼ばれ、それぞれが所在する州と密接に結び付いているとともに、その支援を受けている。州立大学は、高等教育の中心として高く評価される、刺激的で活気に満ちた場であり、それぞれが独自の伝統と、地域社会とのつながりを持っている。また、全米および世界各地から才能ある人々を引き付ける場所でもある。

一般的に、この種の公立大学には数万人の学生が在籍している。米国で大学院および専門学位の大半、そして学部学位の多くを授与するのは、公立大学である。また、幅広いカリキュラムを提供している点も、大規模な公立大学に共通している。私が学長を務めるミネソタ大学を例に取ると、ツインシティーズ校の学

生数は5万人、数百種類の学位を取得することができ、神経学、移植手術、経済学、政治学、材料科学、ナノテクノロジー、農業、天然資源などさまざまな分野でリーダーとなっている。

公立大学は、地域の経済的・文化的発展および都市開発に極めて重要な役割を果たし、ミネソタ大学をはじめ多くの公立大学は、研究を通じて知識と技術の向上に深く関与している。こうした大学は、米国有数の研究大学であり、世界各地の国際的なプログラムに大きく関わっている場合も多い。19世紀後半に連邦政府が取った一連の措置により、各州に大学設立のための資金が付与された。連邦政府の寛大な援助によって生まれた公立大学は、技術移転、農業支援、初等・中等学校との交流、州・地方政府の政策策定者との交流などの形で、それぞれが属する州で奉仕活動を行い、地域社会に関わっていくことを義務付けられている。

研究活動がどの程度熱心に行われているかは、大学によって大きく異なる。公立大学の超有名校が厳しい競争を勝ち抜いて獲得する研究助成金や研究契約の総額は、概して年間数億ドルに上る。また、州から受ける支援の程度にも大きな開きがある。大きな研究予算を持つ州立大学の場合、通常、予算の10～30%が地元



Janet Hostetter, AP/WWP
アイスホッケーはミネソタ大学で盛んな数多くのスポーツのひとつである。

の州から提供される。残りの予算は、大学の授業料、助成金・契約金、および寄付金で賄われる。

大規模な州立大学の場合、その財務構造上、多くの大学院生は、その大学が受ける研究助成金や研究契約に関連する研究助手手当という形で、学資援助を受ける。多くの公立大学では、国際的な交流や研究を支援する資金の調達額を増やそうとしているが、留学生に対する学資援助は、上記の研究助成金以外は、非常に限られている。特に学部生が研究助手を務めることは一般的でないため、公立大学では、学士号取得を目指す学部留学生のための奨学金はかなり限定されている。

大規模州立大学の所在地は、小さな町から大都会まで、さまざまである。州内各地に複数のキャンパスを持つ大学も多い。また、複数の公立大学組織を持つ州も多い。

公立大学は、理事会が運営し、州政府に対してさまざまな報告義務を負う。他の多くの国々と異なり、米国の公立大学には連邦政府の教育長官に対する報告義務はなく、高等教育政策は主に各州に委任されている。ただし、重要な例外として、連邦政府の学資援助、および全米科学財団や国立衛生研究所など多くの連邦政府機関を通じた研究資金は、連邦政府が提供する。

米国の公立大学の慣習には、諸外国とはかなり異なるものもある。州の援助を受ける公立大学でも、学生は従来から教育費の一部を、授業料および諸費用という形で負担してきており、その負担額は増加している。今日では、平均的な学生は、教育費を支払うために学資ローンを受けている。また、公立大学の各種プロジェクト、奨学金、教職員の雇用にかかる費用を賄うために、民間の資金調達の果たす役割が大きくなっている。最後に、大学対抗のスポーツ競

技は学生、卒業生、そして一般市民の注目を集めており、大学にとってスポーツイベントが資金源のひとつとなっている。

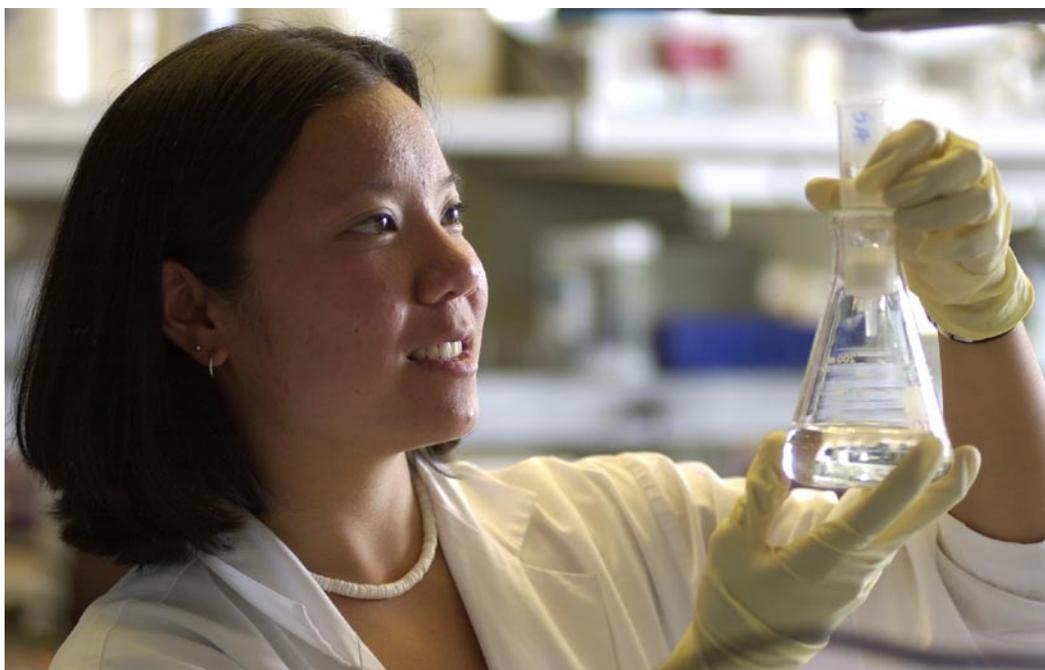
多くの場合、米国の大学の中で留学生や海外からの研究者の比率が最も高いのは、大規模州立大学である。ミネソタ大学には、およそ130カ国から、4500人以上の留学生・研究者が在籍している。同大学は個人・学業に関する問題についてのカウンセリングやアドバイス、米国および大学の文化に関するオリエンテーション、移民・ビザ手続きのアドバイス、第2言語としての英語講座のほか、異文化間の相互理解とコミュニケーションなどのさまざまなテーマを扱うプログラムやワークショップ等の支援サービスを留学生に提供している。ほかの多くの州立大学も、同様のプログラムを用意して、時に複雑でわかりにくい大学の運営制度や就学規則について学生の理解を助けようとしているが、こうしたサービスの内容は学校によって異なる。

他国の大学との競争が厳しくなっているため、どのような一流大学であっても、海外の学生が関心を持つのは当たり前と考えることはできなくなっている。その結果、米国の公立大学は、世界中から最も優秀な学生を集めることに重点を置くようになっている。やる気と自主性があり、最先端の知識と創造的な研究に触れることを望む学生の皆さんには、米国の公立大学で得ることができる豊富な機会について調べてみることをお勧めする。

本稿に述べられている意見は、必ずしも米国政府の見解あるいは政策を反映するものではない。

大規模な私立研究大学とは？

ジェームズ・W・ワグナー



カリフォルニア州スタンフォード大学医学部の皮膚科研究室で研究にいそしむ学生。

Linda A. Cicero/Stanford News Service

ジョージア州アトランタ市のエモリー大学学長ジェームズ・W・ワグナーによると、私立の研究大学は公立大学に比べて財政面での柔軟性に恵まれている。従って、私立大学の方が特徴のあるカリキュラムを作りやすい。

米国の高等教育制度の長所のひとつは、その多様性である。学生数わずか数百人の小さな大学から、数万人の大規模な州立大学まで、また職業教育課程を持つ2年制コミュニティーカレッジから私立の研究大学まで、米国の高等教育は幅広いニーズに対応している。学生にとってどの大学が適しているかは、主に、思い描いているキャリア、財政的制約、そして地理的条件によって決まる。すなわち、本人が何を天職と感じ、何を学びたいか、どの程度の学費を出せるか、そして地元から離れた大学へ行きたいかどうかによる。最終的に最も重要なのは、学生の将来の希望に沿った学校を選ぶことである。

米国で最大規模の大学上位100校のうち92校は、公立大学すな

わち州立大学（連邦政府ではなく、50州のいずれかが援助する大学）である。全米の大学生の77%が公立大学で学んでいる。しかし、各種の大学ランキングを見ると、ほとんどの場合、上位25校のうち3～4校を除くすべてが、有名私立大学である。従って、米国の私立研究大学は、米国のみならず全世界で、特に高い評価を受けていると言える。

しかし、「私立研究大学」とは、具体的にどのような大学なのか。またこうした大学はなぜそれほど魅力的なのだろうか。

私立研究大学は、法律、医学、工学などの分野で専門職に就くための訓練を行うほか、博士号取得のための教育を行う。教授陣は、授業に加えて、研究に多くの時間を費やす。事実、私立研究大学では、教授の報酬や昇進を決める際に、知的能力、学識、そして研究の質が、授業の質と同様に重要である。しかし、公立大学でも専門教育と博士課程の教育を行い、学識と研究を重視している。それでは、私立大学はどこが違うのか。



Adam Hunger, AP/WWP

マサチューセッツ工科大学のロボット工学のプロジェクトで強度と敏しょう性をテストする留学生たち。



John Bazemore, AP/WWP

キャンパスのさわやかな空気の中で勉強するエモリー大学の学生
(ジョージア州アトランタ市)。

ひとつには、私立大学の方が、概して財政面での柔軟性に恵まれている点が挙げられる。私立大学は、資金調達で州議会に依存することはなく、卒業生、慈善団体、科学分野その他の専門職団体が、各種プログラムのコスト、奨学金、建物の建設費、教授の雇用にかかる費用を賄って大学を財政面で支援している。こうした資金源は公立大学においても増えているが、特に私立大学の場合には、このような資金のおかげでニーズにすばやく対応し、新しい方向に大胆に研究を進める能力を高め、専門の研究センター

や独自のカリキュラムを構築することができる。学生にとっては、このような柔軟性があるために、ほとんど研究を奨励されないような分野でも、研究を続けるチャンスが与えられることになる。

同様に、私立大学は公の財源に依存しないことによって、外国に「拠点」を作りやすくなっている。例えば、ジョージア州民が、ロンドンでの研究センター設立に彼らの税金が使われることを承認するとは思えないが、私立のエモリー大学がそのようなセンターを作ることは、おそらく歓迎するだろう。一般に、私立大学の方が、国際的な研究・サービス・教育拠点を開設しやすい。一例を挙げると、エモリー大学は、アフリカ各地、コーカサス地域、およびアジアで、国際衛生に関するプログラムを、またヨーロッパやアジア各地では、経営学のプログラムを実施している。こうした活動は、米国の学生や教授が国の内外を問わず、他国のもっとも優秀な人材と関わるチャンスとなる。

最後に、私立の研究大学の大半は、公立の大学に比べて規模が小さいため、豊富な資源と人間味のある規模という好ましい条件の双方を満たすことができる。公立、私立を問わず、米国の一流大学は学習と研究に関して大きな可能性を秘めているが、私立大学の小規模なキャンパスでは、概して学部同士が距離的に近いため、分野を越えた研究者の交流が容易である。最も重要な発見が、国境を超えた協働によって実現している世界においては、キャンパス内で、そしてキャンパスを超えた世界の隅々にまで至る協働関係を育み、強化することのできる能力が、私立大学の最大の魅力と言えるかもしれない。

本稿に述べられている意見は、必ずしも米国政府の見解あるいは政策を反映するものではない。

米国のコミュニティーカレッジ - 多くの学生が選ぶ高等教育への入り口

ジョージ・R・ボッグズ



美術の授業のために家の設計図を描くオーウェンズ・コミュニティーカレッジ（オハイオ州）の学生。

Michael Lehmkuhle, AP/WWP

2年制大学は、地域に密着した小規模なキャンパスで高等教育の第1歩を踏み出す機会を学生に提供しており、学費も4年制大学に比べて安い場合が多い。高等教育を受ける場としての魅力的な選択肢のひとつであるコミュニティーカレッジの特徴について、全米コミュニティーカレッジ協会のジョージ・R・ボッグズ会長兼最高経営責任者が概説する。

コミュニティーカレッジは、米国における高等教育への入り口のひとつであり、これを選択する学生の数は増えている。コミュニティーカレッジは、学士課程4年間のうち最初の2年間の単位を、質の高い認定校で取得する機会を提供している。授業料が比較的に安いため、学生は十分な支援を受けられる環境で学びながら、経費を節約することができる。また、準学士号取得や学位を必要としない職業に向けた訓練や、幅広い成人学習者向けの生涯教育・能力開発ク

ラスを開講している。

コミュニティーカレッジは、米国の高等教育の中でも、最大かつ最も急速に成長している部門である。現在、全米各地に、地域の認定を受けたコミュニティーカレッジが1200校近くあり、1100万人以上の学生（全米の学部生のおよそ46%に相当）が在籍している。

留学生にとっても、米国のコミュニティーカレッジには、英語能力を高めたり、米国の地域社会の中でアメリカ文化を学んだりする機会があるなど、数多くの利点がある。

そのうちの一例として、次を挙げることができる。



写真提供 Central Piedmont Community College
コミュニティカレッジの生活にいそむセントラル・ピードモント・コミュニティカレッジ（ノースカロライナ州）の学生たち。

安い授業料。4年制大学に比べると授業料がかなり安い（4年制大学では年間1万2000ドルから2万ドル以上であるのに対し、コミュニティカレッジは年間5000ドル前後）。

4年制大学への編入が容易。米国では、2年制大学と4年制大学の間に、「2+2」システムと呼ばれる効率的な「アーティキュレーション（単位認定）」制度がある。ほとんどのコミュニティカレッジは、4年制大学とアーティキュレーション協定を結び、コミュニティカレッジで取得した単位が、4年制の学士課程で認められるようになっている。

認定校。米国のコミュニティカレッジも、4年制単科大学も、主な総合大学も、すべて同じ機関の認定を受けている。従って、コミュニティカレッジで取得した単位が、そのまま4年制大学で認められる。

幅広いカリキュラム。コミュニティカレッジには、多数の専攻科目があり、経営学、情報科学、工学、保健科学など人気の分野も多い。

第2言語としての英語講座。ほとんどのコミュニティカレッジは、英語能力の異なる学生たちがいづれも勉学で成功を収めら

れるよう、さまざまなレベルの英語講座と多様な支援サービスを提供している。

サポート体制の整った学習環境。コミュニティカレッジでは、クラスの人数が少なく、平均して1クラス30人未満であるため、教授が学生を個人的に知り、サポートすることができる。学生の学習パターンやニーズを支援することを目的とした環境の中で、個々の学生の成功を目指すことに重点が置かれている。学生のための支援サービスには、個別指導、学習相談、ライティング実習室、留学生クラブ、留学生サービスセンターなどがある。

多様性。米国のコミュニティカレッジの学生は、文化的にも民族的にも多様なバックグラウンドを持つ。米国の社会を反映するこうした多様性をたたえ、支援するさまざまなクラブや活動がある。

米国文化の体験。コミュニティカレッジは地域社会を反映し、それに応えるものであるため、地元との結び付きが強い傾向にある。そのため、留学生は、米国人と交流し、米国文化を体験する非常に多くの機会に恵まれる。

多様な立地と規模。米国の他の教育機関と同様、コミュニティカレッジにもさまざまな学校がある。大都市にあり、複数のキャンパスを持つ大規模なコミュニティカレッジもあれば、田舎にあって規模が小さく、学生数の少ない学校もある。米国の人口の90%が、コミュニティカレッジに通学可能な範囲に暮らしている。

著名な卒業生。米国のコミュニティカレッジの卒業生には、アーノルド・シュワルツェネガー・カリフォルニア州知事、パリ・グレンデニング元メリーランド州知事、米航空宇宙局(NASA)でスペースシャトル船長を務めたアイリーン・コリンズ、映画「スター・ウォーズ」シリーズをプロデューサー兼監督を務めたジョージ・ルーカス、俳優のトム・ハンクスやクリント・イーストウッド、ファッション・デザイナーのカルバン・クライン、ヒトゲノムの研究者クレーグ・ベンター、そしてリチャード・カルモナ米公衆衛生局長らがいる。

米国のコミュニティカレッジについての詳しい情報は、<http://www.CC-USA.org>、または各地のEducationUSA相談センターで入手できる*A Guide to Studying at U.S. Community Colleges*を参照のこと。

本稿に述べられている意見は、必ずしも米国政府の見解あるいは政策を反映するものではない。

多様性の力

米国の高等教育における独立した部門

リチャード・エクマン



Nancy Palmieri, AP/WWP
マサチューセッツ州のマウント・ホリヨーク大学で卒業を祝うジンバブエからの留学生。

私立の4年制大学は、主として学部の学生のために、多様な教育体験を提供している。独立大学協議会のリチャード・エクマン会長が、私立大学と公立大学との違いを説明する。

米国の高等教育の最も顕著な特徴は、その多様性である。連邦政府が大学のカリキュラムや教授法を管理することはなく、州政府もあまり深く関与しない。しかし、米国の高等教育の中でも、教育理念、プログラム、伝統などに最も大きな多様性が見られるのは、「独立大学」あるいは「私立大学」の部門である。この部門に属する小規模な学校はおよそ600校あり、その中には、米国で最も古い伝統を誇る学校も多い。

この多様性の例として、次のようなものがある。ペンシルベニア州のアーシナス大学には、新入生を人文科学と社会科学のさまざまな文献に触れさせるための学際的なプログラムがある。ノースカロライナ州のウォーレン・ウィルソン大学では、学生全員が大学運営に関連する肉体労働に携わることを義務付けており、これが同大学の教育理念の重要な要素となっている。ウィスコンシン州のノースランド大学は、環境にやさしい運営を実現すべく多大な努力を払っている。ウェストバージニア州のオルダーソン・ブローダス大学は、学生の大半が同州丘陵地帯のごく小さな町の出身であり、その多くが科学や医学の道に進んでいる。インディアナ州のアールハム

大学は、クエーカー教徒が創設した学校で、今も、主な意思決定手段として、学内の全メンバーのコンセンサスを用いている。ペンシルベニア州の女子大学、シーダー・クレスト大学は、女性は科学が得意ではないという固定観念に反して、大勢の理科学卒業生を送り出している。

こうしたおよそ600校の独立大学は、それぞれ異なる特徴を持つ一方で、共通点も多い。

- いずれも比較的規模が小さく、学生数が3000人を超えることはめったにない。
- ほとんど、あるいはすべての講座が学士課程であり、大学院の講座はほとんどない。
- 教授陣は主として教えることに専念する。教授の大半は、研究も行すが、それは教える義務に比べて二義的であり、彼らは教室内外で学生たちと過ごす時間が長い。
- 対話型・参加型の教授法を採用している。
- 教育の過程の多くは教室外で行われるということを認識して



Patricia McDonnell, AP/WWP

マサチューセッツ州のウェルズリー大学で24時間シェークスピア朗読会に参加する学生たちと教授。



Kevin G. Reeves, AP/WWP

アルゼンチンの音楽家たちと共演するオバリン大学（オハイオ州）の音楽専攻の学生たち。充実した音楽科で知られる同大は、初めて女性やアフリカ系米国人を受け入れ、学位を与えた大学のひとつとしても有名である。

いるため、学生同士あるいは学生と教授の交流の機会が豊富にあり、それが教育における正課併行活動の重要な部分とされている。

●基盤とする価値観を明確に打ち出している。それは、その学校を創設した宗派の価値観である場合もある（その宗派が学校運営に関与する度合いが低くなっている場合には、そうした価値観がある程度反映されている）。また、メリーランド州とニューメキシコ州にキャンパスのあるセント・ジョンズ大学をはじめとする、古典の名著を学生に多数読ませる「グレート・ブックス・カレッジ」や、ウォーレン・ウィルソン大学やケンタッキー州のベリア大学のように、学生が勉学に加えて、大学のための労働を割り当てられる「ワーク・カレッジ」など、独自の教育理念を反映している場合もある。

●どのような職業訓練が必要かにかかわらず、人文科学の勉強をすることが、社会に出てから責任ある市民となるために不可欠

である、という方針を持っている。

これらの大学に代表される高等教育の手法は、極めて高い効果を発揮している。例えば、学位取得に関する統計データを見ると、小規模な私立大学は、大規模な州立大学に比べ、学位取得率が高い。しかも、この差異は、最も優秀な学生だけでなく、中等学校での成績や学力評価試験（SAT）（<http://www.collegeboard.com>）の成績があまり良くなかった学生の間でも見られる。また、これらの大学における学位取得率の高さは、大学進学率が低いとされることもある社会経済層（家族の中で初めて大学へ進学した世代である学生、フルタイムで働きながら授業を取っている学生、少数民族の学生など）にも見ることができる。

小規模な私立大学の教育が他に比べて効果的である理由のひとつは、「参加型学習」を実践しているからである。数百校の大学が参加している「学生の参加度に関する全国調査」を創設したジョージ・クーによると、大学で成功を収められるかどうかは、教授を良く知ること、課外活動に参加すること、地域に密着したインターンシップで働くこと、そして、口頭による発表や多くのレポート提出など能動的な教授法を多用した授業に出席すること、といった要素と密接な相関性がある。これらは、大きな大学より、小さな大学で実現しやすい要素である。

小規模な独立大学は、大都市、小都市、農村地域を問わず、全美各地に存在する。これらの大学は、さまざまな経歴を持つ学生、そしてキャンパスでの討論に、異なる才能や見方を提供することのできる学生を歓迎している。外国で育った学生は、貴重な存在と見なされる（ただし、授業は、ほとんどすべて英語で行われる）。

詳しくは、各大学のウェブサイト参照。独立大学協議会のウェブサイト（<http://www.cic.org/>）からほとんどのサイトへリンクできる。

本稿に述べられている意見は、必ずしも米国政府の見解あるいは政策を反映するものではない。

少数民族のための教育機関



Ted S. Warren, AP/WWP
ルイジアナ州のグランプリング州立大学のマーチング・バンドは、陽気な演奏で全国的に高く評価されている。

本稿は、下記に挙げるウェブサイトなどの資料を基に作成したものであり、3つの少数民族（アフリカ系米国人、ヒスパニック、およびアメリカン・インディアン）の学生を対象とする大学に関する情報を提供している。

「少数民族のための教育機関(Minority Serving Institution)」とは、州立大学、私立大学、宗教系大学、人文科学系大学、コミュニティカレッジなど各種の大学の中で、特に少数民族のニーズへの対応に重点を置いている大学である。これらの大学は、人口統計学上の特定のグループに属する学生を受け入れることを伝統とし、あるいは義務付けられているが、多くの場合、少数民族以外の学生も受け入れている。そして、共通の利害と関心を基盤とする組織を築いている。そのようなグループとしては、伝統的黒人大学(HBCU)、ヒスパニック大学協会(HACU)、およびアメリカン・インディアン部族の大学の協会であるアメリカン・インディアン高等教育コンソーシアム(AIHEC)の3つが挙げられる。このほかに、少数民族のための大学を援助する団体が多数存在する。

伝統的黒人大学

「伝統的黒人大学に関するホワイトハウス・イニシアチブ」では、次のように記述している。

「伝統的黒人大学(HBCU)は、アフリカ系アメリカ人の社会だけでなく、米国全体にとって、優れた業績と大きな誇りをもたらしている。1965年修正高等教育法は、HBCUを次のように定義している。『・・・1964年より前に設立された、伝統的に黒人を受け入れている大学で、その主な使命が過去、現在を通じてアフリカ系アメリカ人の教育であり、提供される教育の質に関して信頼できる機関であると(教育)長官が判断した、全国的に認められた認定機関または協会によって認定されているか、またはそのような機関または協会によって、認定に向けて相当な進展をみたと判断された大学』」

ジョージ・W・ブッシュ大統領は、2005年9月11～17日を「全米伝統的黒人大学週間」に指定する大統領声明で、米国の伝統的黒人大学の教育レベルが高いこと、新しい世代を成功に導くための教育していること、そして平等な教育を目指す米国の公

約達成に貢献していることを称賛した。大統領は「こうした貴重な教育機関は、高い教育レベルを維持し、すべての米国民に平等な教育の機会を提供することによって、米国民全員がその可能性を十分に発揮し、繁栄と希望に満ちた将来を目指すことができるようにするために貢献した」とし、「われわれは、誰もがアメリカンドリームを実現できるような社会の創造に向けて努力を続ける」と述べた。全米で105校ある伝統的黒人大学の大半は、南東部諸州、コロンビア特別区、およびバージン諸島にある。その内訳は、公立の4年制大学40校、公立の2年制大学11校、私立の4年制大学49校、および私立の2年制大学5校である。「全米伝統的黒人大学週間」に関する特集記事に、さらに詳しい情報が記載されている (<http://usinfo.state.gov/scv/Archive/2005/Sep/26-256508.html>)。

ヒスパニック大学協会

ヒスパニック大学協会(HACU)は、1986年に設立された。創立メンバーは18校だが、現在は、米国、プエルトリコ、中南米、お



写真提供 College of Sante Fe

ニューメキシコ州にあるヒスパニック教育機関サンタフェ・カレッジでフィットネス・インストラクターの指導を受ける学生たち。

よびスペインでヒスパニックの高等教育振興に力を入れる400校以上の大学が加盟している。米国内のHACU加盟校の数は、全米の高等教育機関の10%未満にすぎないが、これらのHACU加盟校に在籍するヒスパニック系学生は、全米のヒスパニック系学生の4分の3以上を占める。HACUは、ヒスパニックのための教育機関(HSI)を代表する唯一の全国的な教育団体である。205校あるHSIでは、ヒスパニック系学生が全体の25%以上を占める。その他のHACU加盟校では、その比率が25%未満である。詳しくは、http://www.hacu.net/hacu/Default_EN.aspを参照。

部族大学に関するホワイトハウス・イニシアチブ

ブッシュ大統領は、アメリカン・インディアンの社会において部族大学が重要な役割を果たしていることを認識し、2002年7月

3日、部族大学に関する大統領令13270に署名した。この大統領令は、部族大学に関する大統領諮問委員会および部族大学に関するホワイトハウス・イニシアチブを創設するものであった。大統領は、次のように述べた。

部族大学は、かけがえのない言語と文化の伝統の維持に貢献している。同時に、言うまでもなく、何千人もの学生に質の高い教育を提供し、必要な職業訓練をはじめ、インディアン地域の経済開発の手段を提供している。(中略)部族大学に通う学生も含め、すべての米国民は、優れた教育を受ける資格がある。

米国には、連邦政府の承認を受けた部族大学が34校ある。部族大学は、主として中西部および南西部にあり、フルタイムおよびパートタイムの学生を合わせて、およそ3万人の学生がいる。これらの大学は、200以上の分野で、2年制の準学士号を付与しており、一部には、学士号・修士号を提供している大学もある。また、200種の職業教育認定プログラムも提供している。部族大学は、アメリカ先住民族出身の学生しか受け入れていないが、米国の高等教育の特殊な側面を理解する上で役に立つ存在である。詳しくは、<http://www.whitehouse.gov/news/releases/2002/07/20020703-16.html>を参照。

本稿に述べられている意見は、必ずしも米国政府の見解あるいは政策を反映するものではない。



写真提供 Office of the President, Haskell Indian Nation University

カンザス州のハスケル・インディアン・ネーション大学で、パレード用の車を飾り付ける学生たち。

「ブラウン」判決から50年 - なぜ伝統的黒人大学が今も重要なのか

ベバリー・ダニエル・テータム



授業の討論で意見を述べる学生。

写真提供 Spelman College

スペルマン大学（ジョージア州アトランタ市）のベバリー・ダニエル・テータム学長が、アフリカ系アメリカ人学生のアイデンティティを確認し、彼らが、多様な背景と視点を持つ学生たちと出会う機会を提供する上で、伝統的黒人大学の果たす役割について語る。テータム学長の著書には、*"Why Are All the Black Kids Sitting Together in the Cafeteria?" and Other Conversations about Race* (Basic Books, 2003) がある。

私は、1954年にフロリダ州タラハシー市で生まれた。最高裁判所が「ブラウン対教育委員会」訴訟で、「分離すれども平等」という、学校における人種分離の原則を違法とする判決を下してから、わずか4カ月後であった。父は、タラハシーにあるフロリダA & M大学の美術学部で教鞭を取っていた。フロリダ州立大学で博士号を取ることを望んでいたのだが、1954年のフロリダ州では、黒人が大学院に入ることはできなかった。そこで、父は、列車でペンシルベニア州へ行き、1957年にペンシルベニア州立大学

で博士号を取得した。その1年後、父は、マサチューセッツ州ブリッジウォーター市のブリッジウォーター州立大学で、初の黒人教授となり、私はそこで育った。今日、ブリッジウォーター州立大学は、同校史上初の有色人種学長を迎えている。また2004年2月には、黒人女性である私が、フロリダ州立大学主催の高等教育会議で開会のスピーチをした。いずれも、1954年には想像もできなかったことである。

私は、長年にわたり、圧倒的に白人の多い教育機関で、人種差別について教えてきた教育者として、また現在は、最も古い伝統的黒人女子大学であるスペルマン大学の第9代学長として、「ブラウン対教育委員会」訴訟の意義を、新しいレンズを通して理解することができる。多くの伝統的黒人大学と同様に、スペルマン大学も、以前は黒人学生を受け入れていなかった、白人学生が大多数を占める大学と、新たに競争をしなければならなくなった。しかし、競争の激化がきっかけとなり、スペルマン大学では重要



寮の部屋でくつろぐスペルマン大学の学生たち。

写真提供 Spelman College

な改善が実現した。ブラウン判決の後、教授たちは研究・出版活動を活発にすることを強く奨励され、また奨学金のための新たな資金源が作られた。寄付金を増すための資金調達活動の成功によって、財政が安定し、新しい寮や校舎が建設され、現在では、毎年、525人の入学定員に対して、4000人も優秀な若い女性が出願する大学となっている。

スペルマン大学のような伝統的黒人大学が、今も重要性を持つだけでなく、多くの優秀な黒人学生の第1志望校となっているのはなぜだろうか。志望大学の選択には、本人のアイデンティティ、すなわち、自分をどのように見ているか、今の自分がどのような人間であるか、そして将来どのような人間になりたいかが反映される。学生たちは、自分自身が強く反映されていると実感できる環境、自らを教育機関における中心的な存在として見ることでできる場所に引き付けられる。

私は数年前に、圧倒的に白人の多い地域社会で育った、黒人大学の学生の人種的アイデンティティに関する研究の一環として、伝統的黒人大学を選んだ学生たちのインタビューを行った。ある若い女性は、黒人大学での体験について、「キャンパスを歩いている、『この場所は私のために作られたのだ』と感じるのは、とても嬉しいことです」と語った。米国で、黒人女性がそのような語ることでできる場所は、そうたくさんは存在しない。大学の選択における、アイデンティティの確認の重要性を、過小評価することはできない。

今日、ほとんどの大学は、1954年に比べて、かなり多様性が高まっているが、大学は依然として、すべての学生の知力と指導力の可能性を最大限に引き出すような、真に包括的な環境を作るための基本原則を理解する努力を続けている。それは、教育の各段階で効

果的な学習環境に欠かすことのできない、アイデンティティの確認、地域社会の構築、そして指導力の育成、という3つの要素である。

こうした基本原則を実行に移すためには、「この環境は誰を反映しているか」、「誰が全体像から欠けているか」、「地域社会の構築、また相違を超えた対話の奨励のために、どのような機会が存在するか」、「多様性の中で指導力を磨くために、学生たちがどのような形で関与しているか」というようなことを、定期的に検討する必要がある。

私は、人種関係の専門家として、なぜスペルマン大学のような「同質的」な教育機関を選んだのか、とよく聞かれる。言うまでもなく、この質問は、誤った前提に基づいている。本校の学生は、人種的には97%が「黒人」に分類されるが、実際にはかなり多様であり、全米各地および多くの外国から、そして都市部の黒人居住地域だけでなく、白人の多い郊外や農村部からも集まっている。アフリカ各地出身の学生がおり、多様な体験と視点を持つ女性たちの存在は、多くの対話の機会につながっている。有色人種である若い人たちの人生の発達過程において、「グループ内」の対話が、「グループ間」の対話と同じように、また時にはそれ以上に重要性を持つ時期がある。そして、伝統的黒人大学という環境の中でも、その両方を実現する機会を作ることが可能である。

私たちの多くは、すべての学生が高い基準を満たすための機会と刺激を得ることのできる大学、というビジョンを持っている。それは、グループ同士の公平かつ公正な関係を特徴とする、多民族コミュニティというビジョンである。また、学生たちに、批判的な思考、スピーチ、作文、そして定量的論理的思考という手段を与えることによって、知的な発達を促進するだけでなく、すべての学生に、多様な社会に効果的に参加するために必要な技能と体験を提供する教育というビジョンである。このような理想的な教育環境は、米国社会はもちろん、私の知る限りほかには、大きな規模で存在したことはない。しかし、このビジョンは、将来の青写真である。

本稿に述べられている意見は、必ずしも米国政府の見解あるいは政策を反映するものではない。

宗教系大学

デービッド・M・オコネル



ワシントンD.C.のアメリカカトリック大学の静かな環境で勉強する学生。

Chris Greenberg/Catholic University of America

米国の宗教系大学は、いずれも、独自の方法で宗教と学問を結び付けている。本稿では、「宗教系大学の将来に関するハーバード大学会議」で発表をした、アメリカカトリック大学学長のデービッド・M・オコネル神父が、宗教系大学がもたらした高等教育の「付加価値」についてその見解を述べる。これに続き、他の宗教系大学の建学の理念を示して、これらの大学が取るその他のアプローチの一部を紹介する。特定の大学の具体的な方針や理念について詳しくは、直接各大学にお問い合わせいただきたい。ここに記載する情報は、読者に情報源を提供することを目的とするものであり、特定の教義や教科課程を奨励または支持するものではない。

学生勧誘の競争が激しくなる中で、米国の大学は、それぞれの独自性と価値を実証しなければならなくなっている。どの大学も、「教育の質の高さ」そして特定の分野で「最も優れたプログラム」を提供することを宣伝するが、それ以外に、何が、「他に差をつける特徴」となるのだろうか。宗教系大学は、非宗教的な大学と異なり、信仰がそうした特徴であると考えている。

大学が、特定の宗教あるいは信仰の影響を直接受けているということは、その大学が（1）学問の世界において他と異なる独自

性、ならびに（2）信仰を通じて高等教育に目的意識に基づいた貢献をしているという信念、を持っているというメッセージを、非宗教的な学問の世界に伝えるものである。

教育は、理性を通じて人間の経験を解明する。教育は、知性を啓発する。そのために、宗教的な教育は、理性と信仰の神という観点から人間の経験を明らかにし、知性と魂を啓発する。宗教的な教育を通じて、私たちは、理性的な知性によって理解できると同時に、より深いレベルで、信仰する心と精神にとって意味を持つ真実に出会う。私は、以前、「宗教とは、主に事実の問題ではなく、意味の問題である」という文章を読んだことがある。

宗教系大学は、理性と信仰の両方を、個別に提供するのではなく、ひとつの統合された真実の、別個であるが関連する2つの構成要素として提供することを目指す。米国で最も優秀な、広く認められている高等教育機関のいくつかが、何らかの信仰の宗派を起源としていることは興味深い。しかしながら、何らかの理由で、時の経過とともに、学術活動においてこうした宗教的な側面の重要性が減少し、その結果、高等教育においては、純粹に非宗教的なモデル／アプローチと、宗教的なモデル／アプローチの2種類が発達した。



Darron Cummings, AP/WWP

全米女子バスケットボール大会で、練習の合間にチームメイトと談笑する、西インド諸島セントビンセント出身の、南部バプテスト系ペイラー大学（テキサス州）の学生。

大学とその使命によって高等教育に「付加価値」がもたらされること、そしてその付加価値が人々の関心を引き、人々が真に求めるものを独自に提供することによって彼らを引き付ける結果となっていることは、キャンパス内外の誰の目にも明らかである。それは、彼らが受ける教育と人生に影響を及ぼすものである。宗教系大学は、そうした大学が提供するものを求める人々に対して、

学生やその親が宗教系大学を選ぶ場合、明確な宗教的伝統に基づく明確な宗教的アイデンティティと使命を持つ教育機関を選ぶのである。そうした伝統は、大学およびその運営と活動全体に浸透しているべきであり、教室にも、キャンパスの学生生活にも、明確に表れているべきである。教職員は、その使命を果たすべく全力で努力すべきであり、学術活動には実質的な価値がほとんどないかのようにただ受け入れているだけはいけない。ある教育機関が真に宗教的である場合には、その宗教系

自らが宗教的でありながら学問的にも優れていることを売り込むことができれば、長期的な存続し、最終的には、米国の高等教育の特質である真の多様性の促進につながる使命を達成することができる。

米国を代表するカトリック系大学である、ワシントンDCのアメリカカトリック大学は、まさにこの理念を貫いている。

本稿に述べられている意見は、必ずしも米国政府の見解あるいは政策を反映するものではない。

キャンベル大学

ノースカロライナ州にある南部バプテスト（プロテスタント）系のキャンベル大学は、学生が、身体と知性と精神の完全性（批判力も含む）を特徴とする統合されたクリスチャンとしての人格を形成し、知的・文化的・宗教的伝統の理解し、肉体を管理し、そして自分が人々と共に住み、働く世界と社会を敏感に認識するのを支援することを目標としている。同大学は、信仰生活と学究生活が対立することなく、神の恵みにより信仰によって生きることが、神が与えた人間の使命であると考えている。

ブランダイス大学

マサチューセッツ州のブランダイス大学は、最も新しい私立研究大学のひとつであるとともに、1948年に米国ユダヤ人社会の後援により設立された、全米で唯一の無宗派大学である。ブランダイス大学の教育理念によると、ユダヤ人社会の最も優れた倫理的・文化的価値観を体現するとともに、伝統的なユダヤ人社会の教育に対する熱意を通じて、米国に対する感謝を表現することを建学の目的としていた。あらゆる国籍、宗教、および政治的信念を持つ学生や教職員を受け入れることによって、ブランダイス大学は、文化的多様性、機会均等、そして表現の自由という米国の伝統を継承している。

パシフィック・ルーテル大学

ワシントン州にあるパシフィック・ルーテル大学は、プロテスタントであるルター派信者の開拓者によって創設された。同大学は、奉仕の人生のための教育、そしてカリキュラムの統合と能動的学習を重視した独特の教科課程に力を入れている。

ハートフォード神学校

コネティカット州にあるハートフォード神学校は、プロテスタントの会衆派によって設立された。今日、同校には、キリスト教教育プログラムに加えて、「イスラム教およびキリスト教・イスラム教関係研究のためのダンカン・ブラック・マクドナルド・センター」やイスラム教司祭の資格を得るための修士課程がある。指導者、学生、学者、および宗教機関が、今日の多宗教・多元的な世界を理解し、その中で信仰に忠実に生きていけるように指導すること、教育・研究および一般市民への情報提供、そして人々の対話を促進すること、また信仰や社会的環境の特質を確認しながら、相違点と類似点を公に探求することを通じて、神に奉仕することが、同校の使命である。

専門大学

マイケル・ジェイ・フリードマン



Matthew S. Gunby, AP/WWP

メリーランド州にある米国海軍士官学校の衛星設計講座の講師と学生たち。現在この講座では衛星2基を軌道に乗せている。

米国には、特定の分野に特化した大学がある。ここでは、芸術、ビジネス、あるいは軍事訓練を専門とするいくつかの大学を紹介する。筆者マイケル・ジェイ・フリードマンは、国務省国際情報プログラム局の専属ライターである。

米国の大学の大半では、幅広い分野のプログラムを提供しているが、中には、特定の分野に集中したカリキュラムを売り物にする大学もある。芸術、ビジネス、科学技術、軍事訓練など、特殊な分野を専門とするこれらの大学では、学生は特定の分野を集中して学ぶことが期待できる。こうしたアプローチは、誰にでも適しているわけではないが、学生によっては、自分に合った専門大学を選ぶことによって、特に秀でた才能を伸ばし、特定の技能を磨き、同様の才能を持つ仲間と交流する機会を得ることができる。ここに紹介する教育機関は、そうした大学のごく一部である。

入学が難しいことで知られるジュリアード音楽院（ニューヨーク市）は、音楽、舞踊、演劇でプロを目指す学生のための教育を行っている。同校には、米国43州および43カ国から学生が集まっており、卒業生には、クラシック音楽家のイツァーク・パールマン、ヨーヨー・マ、ピンカス・ズッカーマン、ジャズの大家セロニアス・モンクやウィントン・マルサリス、そしてソプラノのレ

オンティン・プライスから低音のジャズ・ボーカリスト、ニーナ・シモンまで多くの歌手など、著名な芸術家が大勢いる。ジュリアード音楽院は1971年以来、マンハッタンのリンカーン・センター内にある。同センターは、全米有数の総合芸術施設と見なされており、ジュリアードに加えて、メトロポリタン・オペラ、ニューヨーク交響楽団、ジャズ・アット・リンカーン・センター、およびその他8つの常駐芸術団体の本拠地となっている。

ジョージア州サバナ市に本部のあるサバナ・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン(SCAD)は、比較的新しい学校であるが、視覚・舞台芸術、デザイン、建築芸術、および美術・建築史のキャリアを目指す学生を教育している。これらの分野に重点を置くことによって、研究大学や人文科学系大学では通常あまり見られない専攻科目を提供することができる。SCADの学生は、広告デザイン、アニメーション、広告写真をはじめ、何十種類もの専門分野で学ぶことができる。こうした分野の職業を目指す学部生にとって、その専門分野を集中して学ぶ機会を与えられることは、極めて有意義である。SCADのポーラ・S・ウォレス学長は、「当校の学生は、独創的なビジョンと技術の習得をつむぎ合わせて、芸術的ビジョンを職業的な専門技術と実り多い将来へと変貌させている」と言う。



Peter Schaal/The Julliard School

ビクター・ゴインズ芸術監督の指揮する、ジュリアード音楽院のカレッジ・ディビジョン・ジャズバンド

デザインや芸術の分野でキャリアを目指す学生は、SCADやジュリアードのような学校を選ぶ。一方、実業界や、成長する技術分野で成功するための技能を高めようとする学生も多い。そして、多くの場合、こうした学生たちは、年齢層が高く、すでに社会人となっている。このようなニーズを満たすのが、多数の「営利大学」である。例えば、インターネット上と、70カ所を超えるキャンパスで授業を行っているデブライ大学のような学校では、実践的な教育を行っている。こうした大学の教員は、学外でフルタイムの専門職に就きながら、パートタイムまたは臨時教員として教えている場合が多い。通常、この種の大学は、家庭や仕事を持つ学生の忙しいスケジュールに合わせ、夜間や週末に多くの授業を行い、パートタイムで大学に通うことを奨励している。コンピューター科学およびプログラミング、ビジネス、その他の技術関連分野が、特に人気がある。米国の雇用者の中には、勉強を継続する社員の授業料を一部またはすべて負担している企業もあり、人気が高い選択肢として、経営学の修士課程（MBA）がある。



Courtesy Savannah College of Art and Design

ジョージア州にあるサバンナ・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザインのアニメーションの授業で、モデルのバーチャル・キャラクターを扱う教授と学生。

米国の大学の大半は、私立大学であるか、または州・地方政府の支援を受けている。しかし、米陸軍士官学校、空軍士官学校、海軍士官学校、沿岸警備隊士官学校、および商船学校など米国の軍事学校は、連邦政府が運営している。

一例を挙げると、メリーランド州アナポリス市にある米海軍士官学校は、極めて入学条件が厳しく、同校の学生（「海軍士官候補生」と呼ばれる）は、連邦議会の各議員、アメリカ合衆国大統領および副大統領、ならびに海軍長官によって任命される。海軍士官候補生は、年齢、健康状態、および学力の条件を満たしているとともに、未婚でなければならない。また、米国民であることも条件のひとつであるが、国際関係および外国の海軍との関係促進のために、国防長官の指定する諸国から最高60人まで学生を受け入れることができる。1976年以降、女子の入学も認められており、2009年卒業予定の学生のうち約5分の1が女子である。

士官候補生は、授業料と食費を免除され、毎月奨学金が給付される。授業は、数学、工学、および航海技術に重点を置いたもので



Steve Matteo, AP/WIDEWORLD

デブライ大学のイリノイ州アディソン・キャンパスで、電気通信プロジェクトに取り組む学生。

あり、多くの学生は、海洋学、航空宇宙工学、造船学など、海洋関係の分野を専攻する。歴史、経済などを専攻する学生もいる。卒業生は、米海軍少尉または海兵隊少尉に任官され、少なくとも6年間の兵役義務がある。

この短い記事では、米国にはさまざまな中等後教育の選択肢があることを紹介したにすぎない。専門大学は、パートタイムの学生、家庭や仕事を持つ学生など、従来とは異なる学生たちのニーズに対応することによって、研究大学や人文科学系大学を補完する存在となっている。また、専門大学の焦点を絞ったカリキュラムは、目標を持って勉強する、優れた才能を持つ学生たちが、その才能を伸ばし、職業上の目標を追求するのを支援している。

大学のランキング

進学相談のカウンセラーは、大学を選ぶにあたり、教科課程、学校の規模、校風、費用、そして場所を考慮して、最も良い大学を選ぶよう助言する。米国の何千校もの大学の中から自分に合った大学を選ぶために役立つ参考資料のひとつに、各種大学格付けランキングがある。

● ピーターソンズとカプランの両社は、各種の教育関係書を発行している。ピーターソンズは、*Peterson's Guide to Competitive Colleges*という大学ガイドを、またカプランは、*Kaplan Publishing's Most Interesting Colleges*および*2005-The Unofficial Unbiased Guide to the 331 Most Interesting Colleges*を発行している。

● 主要新聞社の教育担当記者が、それぞれ推薦する大学のリストを作成している。ニューヨーク・タイムズ紙のベテラン教育担当記者ローレン・ポープによる*Loren Pope's Colleges That Change Lives, 40 Schools You Should Know About Even if You're Not a Straight-A Student*、元ニューヨーク・タイムズ紙教育欄編集者のエドワード・B・フィスクによる*Fiske Guide to Colleges*などである。ワシントン・ポスト紙の教育担当記者ジェイ・マッシュューズの*Harvard Schmarvard: Getting Beyond the Ivy League to the College That Is Best for You*の上位10大学リストは再読の価値がある。

● ペンシルベニア州のテンプレトン財団が、*The Templeton Guide: Colleges That Encourage Character Development*を発行している。

● 大学カウンセラーのベテラン、フレデリック・E・ラグによる*Rugg's Recommendations on the Colleges*は、大学を推薦するだけでなく、優良大学の優秀な学部を列記している。

● エール・デーリー・ニューズ紙の*The Insider's Guide to the Colleges 2005*は、学校経営者側の報告書ではなく、学生とのインタビューに基づいて、300校余りの大学における学生生活を検証して格付けを行っている。

主要雑誌も同様のランキングを発表しており、そのうち数誌が発行する「大学ランキング」特集号は大きな注目を集めている。最も影響力があり、広く引用されているもののひとつが、U Sニューズ・アンド・ワールド・レポート誌の“America's Best Colleges”と“America's Best Graduate Schools”という特集号である (<http://www.usnews.com/usnews/home.htm>)。

同誌は、全国的な有名大学（全米ランキング）、修士課程までの大学（地域別ランキング）、経営学課程、人文科学系大学、工学課程、総合大学（学生の50%以上が人文科学以外の分野で学んでいる、優れた学士課程のプログラムを持つ大学の地域別ランキング）など、多くのカテゴリーに分けて、大学のランキングと主な情報を提供している。

最後に、イリノイ大学アバナ・シャンペーン校の教育・社会科学図書館が提供するウェブサイトがある。このサイトから、多くのオンライン・ランキング・サービス、大学に関するその他の情報源、さらには各種ランキングの相対的な価値を検討するサイトなどにリンクすることができる。 (<http://www.library.uiuc.edu/edx/rankings.htm>)

米国の「トップ」大学

U Sニューズ・アンド・ワールド・レポート誌によると、米国の「トップ」大学とされる100校には、公立（州立）大学もあれば、私立大学もある。全体としてみると、これらの学校は、教育の質の高さ、充実した研究室や図書館などの施設、そして卒業生や後援者の幅広いネットワークなどを特徴としており、さまざまな分野で、学士課程および修士・博士課程の学位を授与している。同誌が発表した2006年全米有名大学上位20校は、以下のとおりである。

- 1 / 2 (同点) ハーバード大学、プリンストン大学
- 3 エール大学
- 4 ペンシルバニア大学
- 5 / 6 (同点) デューク大学、スタンフォード大学
- 7 / 8 (同点) カリフォルニア工科大学、マサチューセッツ工科大学
- 9 / 10 (同点) コロンビア大学、ダートマス大学
- 11 ワシントン大学（セントルイス）
- 12 ノースウェスタン大学
- 13 / 14 (同点) コーネル大学、ジョンズ・ホプキンス大学
- 15 / 16 (同点) ブラウン大学、シカゴ大学
- 17 ライス大学
- 18 / 19 (同点) ノートルダム大学、バンダビルト大学
- 20 / 21 (同点) エモリー大学、カリフォルニア大学バークレー校

(http://www.usnews.com/usnews/edu/college/rankings/rankindex_brief.php)

経営学と工学の優秀大学

米国の大学の格付けや評価を行う組織は多いが、学校の分類基準、もとなる資料（例えば学校経営者による報告書）、あるいは優秀さの定義などが組織によって異なるため、各リストを一致させることは難しい。一例として、2つの分野における優秀校のリストを2つ挙げる。これらのリストは、異なる組織によるランキングを比較し、すべてのランキングの上位20校に含まれている大学をリストアップして作成した。ランキングによって大学の順位が異なるため、このリストでは大学名をアルファベット順に並べてある。

学部工学系プログラム

このリストは、U S ニュース・アンド・ワールド・レポート誌の"Best Colleges 2005"のランキング、およびマサチューセッツ工科大学の大学院生らが「学生が聞いておけばよかったと思う質問」に答えるために作成しているStudentsReview.comによるランキングに基づいて作成した。

コーネル大学（ニューヨーク州）
ジョンズ・ホプキンス大学（メリーランド州）
マサチューセッツ工科大学（マサチューセッツ州）
ペンシルベニア州立大学（ペンシルベニア州）
パーデュー大学（インディアナ州）
レンセラー工科大学（ニューヨーク州）
ライス大学（テキサス州）
スタンフォード大学（カリフォルニア州）
テキサス A & M 大学カレッジ・ステーション校（テキサス州）
イリノイ大学アバナ・シャンペーン校（イリノイ州）
バージニア工科大学（バージニア州）

学部経営学プログラム

このリストは、U S ニュース・アンド・ワールド・レポート



誌の"Best Colleges 2005"のランキング、ビジネス・ウィーク誌の2004年"Best Business Schools"のランキング（これは2年に1度発表される）、およびフォーブズ誌の2003年ビジネス・スクール・ランキング（その大学へ行くことによる投資回収率のランキング）をもとに作成したものである。

カーネギー・メロン大学（ペンシルベニア州）
コーネル大学（ニューヨーク州）
エモリー大学（ジョージア州）
マサチューセッツ工科大学（マサチューセッツ州）
ニューヨーク大学（ニューヨーク州）
ミシガン大学（ミシガン州）
ノースカロライナ大学チャペルヒル校（ノースカロライナ州）
ペンシルベニア大学（ペンシルベニア州）
テキサス大学オースティン校（テキサス州）
バージニア大学（バージニア州）

アイビー・リーグの大学



「アイビー・リーグ」とは、米国で最も古い歴史を持つ一流大学の中の8校のことである。この8大学は、同一リーグでスポーツの試合をし、スポーツ選手の学業成績に同等の水準を求める、という協定を結んでいる。米国で最も初期に創設されたこれらの大学は、古い校舎にツタ（アイビー）の絡まる、歴史と伝統を感じさせる立派なキャンパスを持つため、そのリーグ、そして各大学が「アイビー・リーグ」と呼ばれるようになった。アイビー・リーグの8大学は、ブラウン大学、コロンビア大学、コーネル大学、ダートマス大学、ハーバード大学、ペンシルベニア大学、プリンストン大学、およびエール大学であり、いずれも米国の一流校に数えられている。これらの大学と「アイビー・リーグ」の名前を聞くと、今日でも、米国の優れた高等教育のイメージが喚起される。



国際教育週間

EducationUSAとは、170カ国450カ所以上の相談・情報センターで構成される、米商務省教育文化局支援の国際ネットワークである。これらのセンターでは、米国における教育機会について、正確で、包括的・客観的な情報を適時提供し、また適格者にこうした機会の利用の仕方をアドバイスすることによって、世界各地で米国の高等教育の宣伝活動に積極的に取り組んでいる。

EducationUSAの相談センターには、専門のアドバイザーが勤務しており、その多くは、米国で学んだ経験のある人たちや、米国の高等教育および教育相談について、商務省認可の訓練を受けた人たちである。彼らは、面談、電話、電子メール、またはインターネットによって、年間およそ2500万人の留学希望者を支援している。

EducationUSAのアドバイザーは、留学希望者に、大学を選ぶための各段階で、豊富な情報とサービスを無料で提供する。アドバイザーは、米国のさまざまな大学の違いを理解しており、個人の教育・職業上のニーズに合った大学を選ぶための情報を提供することができる。入学許可が出るまでのプロセスを知っており、筆記試験、論文の書き方、推薦状などについてアドバイスをし、また奨学金に関する情報の入手も援助することができる。

EducationUSAのアドバイザーは、米国の移民法や安全保障上の要件について常に最新の情報を得ているため、学生ビザの申請や面接についても学生を指導することができる。多くのEducationUSAセンターでは、論文や履歴書の書き方を教えるワークショップ、出発前の準備、そして翻訳や書類の確認などの専門サービスを提供している。

最寄りのセンターについては、<http://educationusa.state.gov/>を参照。

国際教育週間は、世界各地で行われている国際教育と国際交流を祝うことを目的とする、米国内務省と教育省の共同イニシアチブであり、米国民をグローバルな環境に適応できるように教育し、未来の指導者と目される海外の人々が米国での研究・学習・交流に関心を持ってもらうことを目的とする各種プログラムを促進する活動の一環である。

学校、大学、大使館、国際機関、企業、各種協会、地域団体など、国際教育・交流活動に関心のある個人や機関の参加を奨励している。（<http://iew.state.gov/>）



COLLEGE LIFE

カレッジ・ライフ

快適な勉強場所があれば、研究課題もはかどる。ジョージア州の穏やかな気候を満喫するスペルマン大学の学生たち。

写真提供 Spelman College



マサチューセッツ州のハーバード大学の食堂で食事をする1年生たち。

Jon Chase, AP/WWP



COLLEGE LIFE

カレッジ・ライフ



Stephen Morton, AP/WWP



サバンナ・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン（ジョージア州）が毎年開催するサイドウオーク・アート・フェスティバルの「リビングアート・プロジェクト」に参加する学生（左）。

サウスカロライナ州のコンバース大学で、オペラ「ラ・ボエーム」の舞台に立つ、スリランカのタランガとエランガ・グーネティレケ姉妹（右）。このオペラはインドネシアの津波災害が発生して1カ月もたたないうちに上演されたが、その時点で、2人はすでに義援金8000ドルを集めており、この公演によってさらに多くの義援金が集まることを期待していた。



Mary Ann Chastain, AP/WWP

Sara D. Davis, AP/WWP



女子サッカー選手権で競争心をむき出しに戦うノートルダム大学とカリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)の選手たち(左)。



COLLEGE LIFE

カレッジ・ライフ



Linda A. Cicero/Stanford News Service



カリフォルニア州のスタンフォード大学では、1970年代に、「バレー・folklorico・デ・スタンフォード」(左)や、学生の主催で毎年行われるスタンフォード・パウワウ(下)のような文化行事が、学内のさまざまな人々の相互理解を促進するために導入された。バレー・folkloricoは、メキシコ文化の普及を目的とする。スタンフォード・アメリカン・インディアン協会が企画するパウワウには、全米から3万人以上が参加する。

Linda A. Cicero/Stanford News Service



大学フットボールで最も権威のある大会のひとつ「ローズ・ボウル」で勝利を取めたばかりのテキサス大学の選手たち。



Paul Sakuma, AP/WWP



写真提供 Davidson College

ノースカロライナ州のデービッドソン大学で中国語の習字を練習する学生。





COLLEGE LIFE

カレッジ・ライフ



Ed Andrieski, AP/WWP



コロラド州にある空軍士官学校で卒業を祝う生徒たち。

Daymon J. Hartley, AP/WWP



ミシガン州議会上院で、盛んに議論された、優秀学生のための「メリット・アワード」奨学金制度の改革を提案する、セントラル・ミシガン大学政治学部の学生たち（上）。



Nati Hamik, AP/WWP



ネブラスカ州オマハ市にあるメトロポリタン・コミュニティーカレッジのラウンジで勉強する学生たち。



COLLEGE LIFE

カレッジ・ライフ



Gene Blythe, AP/WWP

バスケットボール大会を盛り上げるジョージア大学のバンド。



Matt Houston, AP/WWP

全米ソーラー・デカスロン大会のために自分のチームが設計した住宅の一部を作るメリーランド大学の学生（上）。大会では、同大学に近いワシントンDCのナショナル・モールに集まった見物の人々に新しい技術が披露された。



Fred Faulk, AP/WWP

2001年9月11日の同時多発テロの犠牲者の追悼式に集まったミシシッピ州立大学の学生たち。